

宝くじ助成金による広報活動事業

リバーフロント整備センター／TM生

皆様、こんばんわ。突然ではございますが、今宵は「2円の大切さ」について物語りとうございます。

これは、何を隠そう「宝くじ」のお話でございます。日本では寛永年間（西洋の暦では1620年代）に摂津国箕面の滝安寺にて「福富」と呼ばれて始められたのでございます。初めは、神社仏閣の改築資金を作るかためてございましたが、途中不敬の輩の為に御法度にならざるを得なかった時代もあったのでございます。その後、第2次世界大戦末期に再び始められ、今では「宝くじフィーバー」なる言葉が流行る程に隆盛を極めております。そもそも宝くじは100円（近頃は200円、300円もございます）を10万倍（国主いえ自治大臣が指定したものについては20万倍でございます）にいたそうと画策するわけではありますが、当たる様な奇特な御仁は、私の回りにはおられないようでございます。そうなりますと、100円の行方が気になってまいります、46円が賞金に、40円50銭が地方公共団体の公共事業に、11円50銭が発行並びに売捌経費にそれぞれ使われ、残りの2円が財団法人日本宝くじ協会の軍資金となり、宝くじが世の為・人の為に役立っていることを知らしめるため、いろいろなものを作成・設置すること、お金を分け与えているのでございます。この様な状況の中、当センターにも宝くじ協会から昭和62年度事業として2500万円の助成があったのでございまして、このことは皆様がお買い上げになられた一枚一枚の宝くじが、我がセンターに役立っていることの

証してございます。

その2500万円をいかにして使ったかと申しますと、先ず1500万円をもちまして、関東の勇北条氏の御領地でございます松戸市及び、關將織田信長殿のお城がございました岐阜市に「モニュメント」なるものをセンターが設計・施工いたしまして、各市に御寄贈申し上げたのでございます。また、残りの1000万円をもちまして、我が国における水の辺の先駆け的な整備をとりまとめました「パンフレット」及び、かわいらしい女子と人形を使いました「ポスター」を作ったのでございます。このときモデルになった女子は藤谷美紀と申しまして、昭和48年9月15日、尾張名古屋生まれの14歳という私よりもざっと450歳も若い御方でございます。昨年行なわれました『第1回全日本国民的美少女コンテスト』にてグランプリを受賞なされまして、芸能界にデビューしたのでございます。水彩画が得意でアスパラガスが嫌いな多感な少女でございまして、センターと共にこれからが大いに期待されているのでございます。

